

1. 単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
【知識及び技能】
- ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

2. 学びをつなぐ教材化と活動構成(視点1)

本学級の児童は、根拠をもって自分の考えを表現することに対して意欲的である。一方で、友達の考えを聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。

本単元では、豊かな対話を通して、物語を具体的に想像する力を育成することを目指す。そこで、「『問い』を解決しながら読み、感想新聞に自分の考えをまとめる」という言語活動を設定する。みんなでつくった「問い」の中から自分で選び、それを解決する活動を軸に単元を構成することで、場面を比べて物語を読んだり、他者と対話したりすることの必要感を見だしながら学びをつなぐことができると考える。

学習計画を立てる際には、多様な「問い」に対する考えを交流して読みを深めることを通し、単元の中心的な「問い」である「題名『一つの花』に込められた意味は何か。」を解決できるような展開にしていきたい。また、感想新聞の見出しには、自分が選んだ「問い」を位置付ける。「問い」に対して、どのように考えたかを明確にするという単元のゴールへの見通しをもって学習に向かえるようにしたい。

3. 協働的な学びを促進する指導と評価(視点2)

本時で目指す協働的な学びの姿とは、「問い」に対する自分の考えを、友達と対話することを通して見つけ直し、物語への見方や考え方を深める姿である。

本時の導入では、前時で選択した「問い」に対する自分の考えをもつ〈個別探究〉の時間を設ける。自分の考えをもち、立場を明確にして話合いに臨めるようにする。

次に、それぞれの「問い」に対する自分の考えを交流する〈協働探究〉の時間を設ける。グループに分かれて考えを交流する際には、教師が子どもの考えを見取りながら、板書に位置付けたり、対話が継続するように声掛けを行ったりする。そうすることで、協働的な学びを促進し、物語を読んで考えを伝え合う面白さを感じながら読みを深められるようにする。

後半には、単元を貫く中心的な「問い」である「題名『一つの花』に込められた意味」について考える。どの登場人物の視点で読むか、どの叙述に着目したかによって考えに違いが出る。叙述を基にした多様な解釈を友達と交流することを通して、作品を多面的・多角的に捉えられるようにしたい。

4. 活動構成(8時間構成 本時6/8)

【活動① 問いを生み、学習の見通しをもつ】 1~2/8 評 知

- 題名「一つの花」のイメージを交流する。範読を聞き、初発の感想を書く。
- 物語の設定(登場人物・時代・季節・場所)を確認し、**問い**を生む。どのように解決するか学習計画を立てる。

「一つ」という言葉がたくさん出てくる。「『一輪』の花」では、ないんだね。

言語活動 「問い」を解決しながら読み、感想新聞に自分の考えをまとめる

【活動② 戦争中の場面を読む】 3~5/8 評 知・思

- ゆみ子と母に関わる問いを中心に読む。(主に1場面)
- 母や父のゆみ子への思いに関わる問いを中心に読む。(主に2場面前半)
- コスモスを渡す父の思いに関わる問いを中心に読む。(主に2場面後半)

単元を貫く中心的な「問い」
・「一つの花」に込められた意味は？

読みを深めるための個別の「問い」

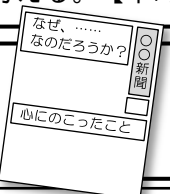
- ・なぜ、「一つだけ…」が口癖に？
- ・お父さんは、なぜ花を渡した？
- ・最後の場面は何のため？
- ・この物語は、ハッピーエンド？
- ・何を伝えたいお話なのか？ など

【活動③ 戦争中の場面と十年後の場面を比べて読む】 6/8 評 思

- 戦争中(1・2場面)⇔十年後(3場面)を比べることで、題名「一つの花」に込められた意味を考える。【本時】

【活動④ 心に残ったことを「感想新聞」にまとめる】 7・8/8 評 思

- 自分が追究した問いに対する自分の考えを中心に、心に残ったことを「感想新聞」にまとめる。
- 書いたものを交流し、共通点や相違点に着目しながら、学びを深める。



5. 本時の展開 (6/8)

目標 自分の選んだ「問い」に対する考えを交流し、題名に込められた意味を考えることを通して、場面の移り変わり結び付けて登場人物の思いなどを具体的に想像することができる。

学習活動と子どもの姿

教師の関わり

前時までに、1・2場面を中心に、戦時中の状況や、「お母さん」や「お父さん」の「ゆみ子」に対する思いを捉え、本時で考えたい自分の「問い」を考えている。

本時で自分が考えたい「問い」を選択し、自分ごととして捉えることで、学習の見直しをもてるようにする。

○3場面を読み、自分の「問い」に対する考えをもつ。

3場面を読んで、「問い」を解決していこう。

選択した「問い」に対する自分の考えをもつ「個別探究」の時間を設けることで、自分の考えをもち、立場を明確にして話し合いに臨めるようにする。

○自分の選んだ「問い」に対する考えを交流する。
主に、同じ「問い」ごとのグループで交流 → 全体交流へ

「問い」ごとのグループで集まって交流する中で、教師が子どもの考えを見取り、適宜黒板に記録する。話し合っている内容を視覚化し、互いの考えをつなげやすくする。

お父さんのことを覚えていないのがかわいそう。

「小さなお母さん」は、ゆみ子の成長を表している。

戦争の悲しさを伝えたかったのかな。

一輪だったコスモスがいっぱいになったことが分かるね。

戦争で食べ物になかった頃のことを想像できた。

ゆみ子に対するお母さんやお父さんの愛情を感じたよ。

戦争に行くお父さんの気持ちを考えて切なくなった。

悲しいだけでなく、平和への願いも込められている。

幸せそうな場面だけど、ハッピーエンドとは言えない。

コスモスがいっぱい、平和な世の中な感じがする。

戦争後は、とんとんぶきの小さな家に住んでいる。

戦争が終わって食べ物を選べる時代になっている。

最後の場面は
何のため？

悲しさ 成長
つらさ 家族愛

何を伝えたい
物語なのか？

切なさ 希望
戦争 平和

ハッピーエンド
なのだろうか？

それぞれの「問い」に対する考えがつながり合って、読みが深まってきた。

結局 最後の場面には、「一つ」という言葉が出てこないけれど…

「一つの花」という題名には、どんな意味が込められているのだろうか。

全体交流で、それぞれの「問い」に対する考えが出揃い、3場面の「問い」が解決したタイミングで、単元を貫く中心的な「問い」について発問する。

○題名「一つの花」に込められた意味を考える。

前半の「一つだけ」は、食べ物がなくして仕方がなく…というマイナスの意味

一つの花

お父さんの「一つだけ」には、たったひとつの大切な…というプラスの意味

戦争のつらさ・悲しさ

子どもを思う気持ち
未来への希望

「一つの花」の「一つ」という言葉には、ゆみ子に対するお父さんの思いや願いが込められているんだね。

単元を通して「一つ」という言葉に着目し続けてきたことを想起させることで、それぞれの「問い」に対する考えがつながり合い、対話が深まるようにする。

○ノートに振り返りを書く。
友達と話し合って、考えが変わったり深まったりしたことを中心に自分の考えを書く。

考えが変わったり深まったりしたことを中心に振り返りを書くことで、対話することのよさを実感できるようにする。

繰り返し出てくる「一つ」という言葉に着目したり、自分の「問い」に対する考えを交流したりすることで、読みが深まったね。

【学びの価値を実感する姿】
対話を通して、「問い」に対する自分の考えを深めている姿。(発言・ノート)

○次時で、「感想新聞」に考えをまとめるという見直しをもつ。